

分字一キアノ上、記はニホク

老軀瘦せて鶴の如し。

僧あり

樂人に七あらず

南蛮の征途を想けしむる

武陵の一曲に

賈人に七あらず

紅白の珊瑚、珍菓奇草に代へんとす

七珍万寶を捨て入

廣州の港口纜を解かんとす。

潮信に任せて

天風に御し

雲烟鎖す雲海の彼方

萬石を越ゆる宇南船

水は萬を載せざとけいへ

唐の時代

四行

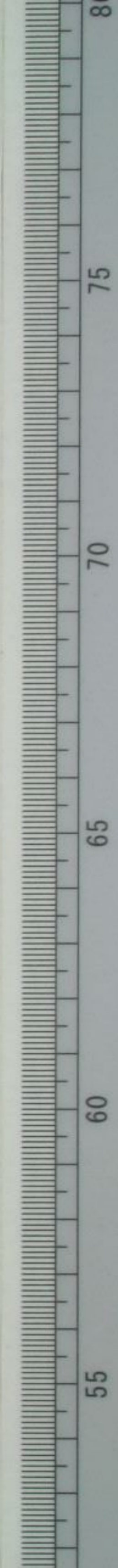
南海舶

真如法親王、廣州を航出せんとする當時を憶ふ

七海又キ

河井

醉差



一行アキ

従者従けず伴者来らず

單身飄飄として船に上り

自ら曰くのたまはるま

「我は之れ車梅の一老衲

法を求めて五天に渡らん」とす

巨浪、白馬を躍らせ

大東、虚空に舞ふ」と

船路の果るところ

わが上陸の地はあらむ」と

ハ然れ野を呑むの氣概は

眉宇に溢れ

巖たる尊容に

舟中おのづから畏服せり。

船出づる時

旗たれし音あり

高く天空に舞ふ

瑞相、洋洋

船し、人も

船程果左して幾千里

香とて天涯に向ふ。

ニ字
下ゲ
ボロ

註。「南海舶」は安南廣州を通過し南蛮船を
出帆のとき先づ船を引出すを例とす。